

# 海外就業体験プログラム台湾（2011）実施報告

Enforcement report of International internship program in Taiwan (2011)

紙 矢 健 治

キーワード：台湾、高齢者福祉、障害者福祉、障害児福祉、脊髄損傷者

## 1. はじめに

本プログラムの目的は、本学の新たな学科である福祉情報学部人間コミュニケーション学科の学生を対象に実施される OSP (Overseas Study Program) を念頭に、言わばリハーサルを目的としたプレイベントとして実施することであった。人間のコミュニケーションでは、言語のみならず、非言語によるコミュニケーションが重要である。本プログラムでは、多様化する社会において、本学のEQ教育の中核である「つながる力」を身に着けさせるために、あえて言葉の通じない環境に身をおいて、いかに相手の意思を洞察し、コミュニケーションを図るかを学習する機会として計画された。

本学ではこれまでに、海外での語学研修や、国内の福祉施設で実習をおこなう実績はあったが、海外の福祉施設において実習をおこなう例はなく、今回が初めての試みである。また、交流協定を締結している国立高雄餐旅大学において、「ホスピタリティ講座」を受講し、すべてのサービス産業に共通する精神について、異文化的視点から考える機会を得ることもねらいであった。

## 2. 海外就業体験プログラム実施内容

岡野啓介学長よりアジア諸国での海外就業体験プログラム（以下、本プログラムと略す）を立案・実施するようにとの指示を受け、紙矢教員が昨年9月まで勤務していた国立高雄餐旅大学と高雄市政府社会局に相談をしたところ、本プログラムの実施については、徳輝苑と脊喜家園の2施設が本プログラム実施

表1 徳山大学海外就業体験プログラム2011台湾（スケジュール）

日時	行程
2011年 9月19日 (月)	キャセイ航空511便、福岡／台北（桃園国際空港） 台湾高速鉄道611列車で高雄左営駅へ（15：00） 国立高雄餐旅大学餐旅学院応用日語系 黄招憲教授が出迎え、車にて同大学へ向かう。 群会館にチェックイン後、学生食堂にて歓迎の宴
9月20日 (火)	午前9時30分より午後3時半まで 台南市徳輝苑を見学 ※PTS台湾公共テレビ取材を受ける。
9月21日 (水)	午前9時30分から社団法人高雄県脊髓損傷者協会「髓喜家園」 （高雄市岡山区）を見学。昼食をはさんで午後引き続き見学。
9月22日 (木)	午前9時30分から10時30分まで 国立高雄餐旅大学第3教学ビル5階応用英語系会議室 「ホスピタリティ講座（1）」 台湾のホスピタリティ教育について 応用日語系 主任 黄招憲教授 午前11時から午後1時まで 鳳山早期療育センター見学 「ホスピタリティ講座（2）」 ホテルサービスと福祉 高雄餐旅大学ホテルマネジメント系 謝金龍先生 「ホスピタリティ講座（3）」 台湾の高齢者福祉の現状 高雄市政府社会局 劉雲芝督導
9月23日	正午チェックアウト 学生アパートへ移動
9月24日	ホームステイ（学生交流）
9月25日	午前11時 第1実習ビル1階集合 13時00分 高雄左営発台湾高速鉄道乗車 17時40分 桃園国際空港発キャセイ航空510便で帰国。

の受け入れを表明し、その他、紙矢教員が交流のあった障害児早期療養施設（鳳山早療センター）も合わせた3施設での研修が実現した。実施のスケジュールと内容は、表1を参照されたい。

## 2.1 台南市臨安養護センター徳輝苑（台南市YMCA社福基金会老人照顧服務中心）

徳輝苑は、財団法人台南市基督教青年会社会福利基金慈善事業基金会によって設立運営されている高齢者福祉施設である。入所しているのは、満60歳以

上の健康または軽度・中度の認知症、日常生活に介護が必要な高齢者と満50歳以上の心身障害者で、日常生活において介護が必要な高齢者である。

日本では、老人福祉法<sup>1)</sup>の第5条の3によって、老人福祉施設とは、老人デイサービスセンター、老人短期入所施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、老人福祉センター、老人介護支援センターとされているが、徳輝苑は老人デイサービスと養護老人ホームなどが主な業務として運営され、日本の広島YMCA系列の社会福祉法人広島友愛福祉会や広島YMCA福祉会・訪問介護ステーション「ピース」などの運営方式を取り入れた運営をおこなっており、台湾では評価が高い。

以下、研修の様子は、写真を参照いただきたい。

### 2.1.1 研修の内容

徳輝苑に到着した後、先方の責任者にブリーフィングをお願いし、施設内での行動で注意するべき点の説明を受けた。施設の建物は、1階が事務室、プレイルーム、会議室などからなり、2階以上がお年寄りの居住スペースであった。

入居者の1日の活動（写真1参照）は、写真の活動表の通り、起床は午前7時30分で、概ね8時30分には、朝食を済ませ、その後は血圧計測やテレビ番組の鑑賞などがある。研修は午前9時40分に始まる午前健康操（健康トレーニング）から始められた。当日は音楽やお話が1階プレイ

時間	活動内容
7:30-8:30	準備起床活力早餐
8:30-8:40	量血壓
8:40-9:40	看电视/休息
9:40-10:00	
10:00-	晨間健康操
10:10-11:10	音樂活力操
11:10-11:30	休息
11:30-13:00	午餐時間
13:00-14:00	午休時間
14:00-14:20	
14:20-15:00	洗澡
15:00-15:30	點心時間
15:30-17:30	禱告會/晚餐時間

写真1

1) 昭和38年法律第133号

ルームで行われ、入居者から歓迎を受けた。

当初は、11時から13時まで、食事の介助を研修の目的としていたが、個々のお年寄りの飲食の能力、とくに咀嚼機能がまちまちなため、場合によっては、食べ物をのどにつまらせる危険もある



写真2



写真3

ために、食事に立ち会うだけにとどめた(写真3)。

入居者の中には、日本語を話す人が多く、深刻な認知症の症状が出ている人でも、日本語で話しはじめたとたん、昔の話を語り出すなど驚くこともあった。入居者には、いわゆる本省人と外省人の両方がおり、本省人は日本語と台湾語を話し、外省人は北京官話(普通語)を話す。一般的に本省人は対日感情が良く、反対に外省人は対日感情が悪いと言われるが、本省人・外省人双方の入居者に親切な対応をしていただいた<sup>2)</sup>。

2) 外省人は戦後の国共内戦の際に、台湾に撤退した国民政府軍に従軍した人、またはその家族、混乱を避けて渡台した人を言う。これに対し、本省人は1945年8月の終戦以前、台湾に居住していた人を指し、日本統治時代には本島人と呼ばれていた。言語は、外省人が北京官話、本省人は台湾語が客家語を話す。その他に、原住民(日本では高砂族と称す場合がある)もいるが、徳輝苑の入所者は本省人、外省人だけであった。



写真 4



写真 5



写真 6 参加学生と入居者の女性

(注) 参加者と入居者の皆さん。高雄市政府の劉雲芝督導（後左二）、紙矢教員（後左四）、参加学生 1（後左五）、参加学生 2（後右一）

## 2.2 高雄市心身障害者社区家園 髓喜家園

高雄市心身障害者社区家園「髓喜家園」は高雄市岡山区に位置し、交通事故や労働災害による脊髄損傷によって半身または全身に障害を負った人、または後遺症をもつ人を入所対象としている。この施設は高雄市政府が社団法人高雄県脊髄損傷者協会に委託し運営されている<sup>3)</sup>。台湾では、公設民営の経営方式が積極的に取り入れられ、例えば、高雄市の場合、高雄市立病院のうち高雄市立聯合医院大同院区と小港医院のような大規模拠点病院が私立高雄医学大学に委託運営されている。同様に高齢者介護や障害者福祉に関連する福祉施設の

3) 2010年12月に中華民国高雄市（行政院直轄市）と隣接する高雄県が合併し、高雄市となったため、同法人の名称は、現在も登記上、高雄県脊髄損傷者協会となっている。

多くは、政府の直営ではなく、こうした公設民営の運営方式をとっている。随喜家園には現在は6名（女性1名、男性5名）が入所しており、リハビリテーションは4か月を1回とし、原則として、リハビリテーションが完了したと判断されるまで継続入所することができる。1年を超える入所者が半数を超える。

### 2.2.1 研修の内容

随喜家園では、午前中、写真7のようにリハビリテーションの様態を参観し、実際に入所者と交流をすることができた。昼食をはさんで午後は、入所者のオートバイ乗車トレーニングを参観したり（写真8）、担当者のブリーフィングを聞いたりした（写真9）。



写真7



写真8



写真9 随喜家園紹介のブリーフィング  
左から朴君、山崎君。右一は羽淵教員

### 2.3 伊甸社会福利基金会 鳳山早療中心

伊甸社会福利基金会は、キリスト教を背景とする社会福祉基金会である。現在は、台湾全土の他、マレーシアやベトナムなどにも同様の身体障害者・心身障害者の入所施設を設置している。鳳山早療中心は高雄市政府が財団法人伊甸社会福利基金会に委託し、運営されている就学前児童の早期リハビリテーションセンターである。伊甸とは中国語でエデンの意味である。おもに自閉症や脳性小児麻痺の児童のリハビリと健常児童の融合教育を実施している。高雄市内には、高雄市サービスセンター（高雄市服務中心）、高雄市早期療育総合サービスセンター（高雄市早療総合服務中心）をはじめ10の拠点がある。



写真 10

同センターでは、入所している障害児と直接触れあうことはできなかったが、センター内の教室やリハビリ施設、健常児学級などを見学することができた。

### 3. ホスピタリティ講座

国立高雄餐旅大学第3教学ビル5階の応用英語系会議室において9月22日に実施した。高雄



写真 11 写真は健常児クラス

餐旅大学の2名の教員と高雄市政府から劉雲芝督導が来られ、講師を担当していただいた。黄招憲教授は「高雄餐旅大学のインターンシップについて」、謝金龍講師は「台湾のホテルサービスと福祉」について、劉雲芝督導は「台湾の

福祉制度について」を、それぞれ講演してくださった。なお、黄教授と謝先生は日本語で、劉氏は中国語で講演し、紙矢教員が通訳を担当した。

黄招憲教授は、救国団勤務を経て、1995年8月より国立高雄餐旅大学に勤務している。語文訓練中心、夜間部主任、教務長を経て、1996年より応用日語系主任を務めている<sup>4)</sup>。(写真12)

謝金龍講師は、国立高雄餐旅大学の2期生で、大学卒業後、寒軒国際大飯店営業経理(部長)などをつとめながら、ツーリズムマネジメント研究科修士課程において紙矢教員の指導のもとエコホテルの研究を行った。(写真13)

劉雲芝督導は、高雄市政府社会局に勤務し、高齢者施設の監督を担当している。現在の台湾における高齢者施設の現状についてお話しいただいた。(写真14)(写真15)

表2 国立高雄餐旅大学「ホスピタリティ講座」

時間	講座内容	講師
09:30-10:30	台湾のホスピタリティ教育について	国立高雄餐旅大学 餐旅学院応用日語系主任 黄招憲教授
14:30-15:30	ホテルサービスと福祉	国立高雄餐旅大学 餐旅学院ホテルマネジメント学科 専任講師 謝金龍先生
15:30-16:30	台湾の老人福祉の現状	高雄市政府社会局 督導 劉雲芝氏

(注) 当日はエデン社会福利基金会の研修が11:00から14:00まで実施されたため、10:30から14:30まで中断した。



写真12



写真13

4) 応用外語系日文組として設立後、2009年度より、応用日語系となった。





写真 14



写真 15

## 4. 反省点

### 4.1 施設での研修について

まず、高齢者施設徳輝苑では、たくさんの入居者から学生と話をしたいと言われ、うれしい悲鳴をあげる状態となった。ただ、日本語の会話力のあるお年寄りが交流の中心となり、すべての入居者とコミュニケーションをとることができなかったため、学生と話しができず不満を口にする入居者もいて、同行した教員がかかわって話をしたりして対応したが、これほど受け入れられるとは予想していなかった。次回からは、日本語だけでなく、現地の言葉でもあいさつや交流ができるように準備して臨む必要があると感じられた。

### 4.2 ホームステイについて

国立高雄餐旅大学側の都合により、ホームステイが学生寮（アパート）での宿泊となり、当初予定していた台湾人家庭における交流は実施されできなかった。しかし、高雄餐旅大学の学生と同年代の学生同士での交流はしっかりできた様子であった。高雄市の橋頭にある台湾製糖会社や瑞豊夜市などへ、学生同士で行ったりできたようなので、充実した様子であった。

## まとめ

言葉が通じない異文化の空間において、相手の意思をいかに読み取り、交流

をおこなうかという目的は達成できたのではないだろうか。社会的弱者と言われる高齢者や身体障害者、障害児の様子は、おそらくは日本も台湾も同じはずであるが、やはり「つながる力」をいかに身につけるかということがいかに大切であるかを参加者は理解してくれたように思う。なお、本報告は、海外就業プログラムの実施の状況を報告するのが目的であり、また紙幅の関係で、学び取った内容については詳しく触れることができなかつたことをおことわりしておきたい。今後は、事前学習を含め、福祉施設での研修内容等を充実させていきたい。

## 謝 辞

高雄市政府社会局督導、劉雲芝氏、国立高雄餐旅大学餐旅学院応用日語系、黄招憲主任、施文華副教授、ホテルマネジメント系、謝金龍先生には受け入れおよび研修、ホスピタリティ講座の実施で大変お世話になった。この場をかりてお礼申し上げます。